

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 22 日現在

機関番号：22604

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2012

課題番号：21760478

研究課題名（和文）

フランス都市計画の政策合成・一般市街地制御・地域間調整技術による景観街づくり

研究課題名（英文）

Cityscape planning in France through the composition of urban planning policies, the control of ordinary urban areas and the several local authorities' coordination

研究代表者

鳥海 基樹 (TORIUMI Motoki)

首都大学東京・都市環境科学研究科・准教授

研究者番号：20343395

研究成果の概要（和文）：

本研究の背景には、我国の景観計画の土地利用等の都市計画との連関の欠如、歴史的環境への偏向と一般的市街地への無関心、都市フリンジの景観の紊乱への無力等の欠点がある。上記の欠点を、フランスの都市計画に見る「政策合成技術」「一般市街地制御技術」「地域間調整技術」を視座に克服する制度設計を目的とした。フランスの景観計画と郊外大規模店舗規制等との連携、それらが対象とする地理的な広がり、そして複数地域間の都市的資源の配分手法を、制度のみならず立案・運営組織の点からも、文献読解、聞き取り調査、そして現地踏査の古典的手法で実証的に分析した。

研究成果の概要（英文）：

In the background of this study, there are lack of the linkage with city planning such as the land use of the cityscape planning of our country, an inclination to historic environment and faults such as the indifference to the ordinary urban area, the lack of funds to cityscape destruction of the city fringe. I aimed for a system design to overcome these problems through the "policy composition technology" "control of ordinary urban areas" "several local authorities' coordination". I analyzed the French cityscape planning by comparing the scale store regulation, the geographical extent and the resources distribution by the classic technique of documents reading and understanding, hearing investigation and the field survey substantially from the point of not only the system but also drafting, the administrative body.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：都市計画・建築計画

キーワード：景観・環境計画

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景には、我国の景観計画の土地利

用等の都市計画との連関の欠如、歴史的環境への偏向と一般的市街地への無関心、都市フ

リンジの景観の紊乱への無力等の欠点がある。

2. 研究の目的

上記の欠点を、フランスの都市計画に見る「政策合成技術」「一般市街地制御技術」「地域間調整技術」を視座に克服する制度設計を目的とする。

3. 研究の方法

フランスの景観計画と郊外大規模店舗規制等との連携、それらが対象とする地理的な拡がり、そして複数地域間の都市的資源の配分手法を、制度のみならず立案・運営組織の点からも、文献読解、聞き取り調査、そして現地踏査の古典的手法で実証的に分析することを研究方法論とする。とりわけ、粗探しする位の姿勢で実態把握を重視する。また、我国の都市の抱える問題からの対象地選択等、我国で要求が高まる視座からの検証も実施する。

4. 研究成果

(1) 2009年度は、フランスの都市計画関連制度の現況に関し、以下の研究を行った：

①広域都市計画制度の問題点の把握：我国ではフランスの広域行政組織や広域都市計画制度に関する報告は多いが、前者に関してはそれが可能となるインセンティブ、後者に関してはその問題点の把握は殆ど全くなされていない。既往研究のレビューにより、前者に関しては職業税の共同管理による水平調整システムが広域連携の誘因となっている点、後者に関しては政治的対立から広域都市計画の範囲が実体的都市域よりも過小となりがちな点を明らかにした。

②広域都市計画立案機関と弱小基礎自治体の都市計画策定支援組織の調査：我国では広域都市計画や地方分権型都市計画を礼賛する一方、その立案機関や策定支援組織に関する考察が欠落している。そこで全国都市計画機構連盟（FNAU）及び全国建築・都市計画・環境助言機構連盟（FNCAUE）にヒアリングを行い、その概要を明らかにした。

③都市計画の補完制度の最新情報の整理：我国ではコンパクト・シティの形成に向けた都市計画制度の改正論議がかまびすしいが、例えば郊外大規模店舗の一元的規制を疑問視しない主張や、住宅政策を加味しない議論が多い。そこで、雇用や環境を理由に小売店舗を制御する商業空間整備制度や、住宅政策の都市計画への統合制度などの最新情報を整理した。

④コンパクト・シティを巡る議論の検証：我国ではコンパクト・シティの形成を絶対的目標とし住宅の拡散を防止する議論が主流だが、フランスでは職住の場の距離や社会的交

流の頻度を視座として、空間的凝集性が必ずしも最適解とはならないことが主張されていることを明らかにした。

(2) 2010年度は、フランスの都市計画関連制度の現況に関し、以下の研究を行った：

①開発型都市デザインの事例総括：我国でも2004年に景観法が制定され、景観街づくりの議論が活発になっている。しかし、それらの殆どが歴史的環境や自然環境、或いは低層住宅地の保全を指向しており、開発はどちらかと言うと性悪なものとして捉えられている。対して、フランスでは適切な尺度とプログラムによる開発型都市デザインの実績が蓄積され、歴史的環境に敬意を払いつつも現代性を前面に押し出す街づくりが進んでいる。それらに関し、パリ、デファンス、リヨン、マルセイユ、レンヌ、ストラスブールなどの最新の取り組みの他、土木デザインの試行などまとめ彰国社より『フランスの開発型都市デザイン-地方がしかけるグラン・プロジェクト』として公刊した。

②広域都市計画の実態把握：我国ではフランスの広域行政組織や広域都市計画制度に関する報告は多いが、前者に関しては職業税の共同管理による水平調整システムが広域連携の誘因となっている点、後者に関しては政治的対立から広域都市計画の範囲が実体的都市域よりも過小となりがちな点を明らかにした。また、広域都市計画立案機関と弱小基礎自治体の都市計画策定支援組織が整備されているからこそ、それらの策定が円滑に行われている点を明らかにした。

③首都圏整備計画の概要把握：我国では都市計画の地方分権が絶対善として捉えられる傾向があるが、首都圏整備に関しては国の関与が不可欠である。フランスでは地方分権により断片化した都市計画を反省し、国際的な都市圏競争で優位に立つため国が『グラン・パリ』計画を推進している。その概要を把握するため、ジェラルド・マルクー・パリ第1大学教授にヒアリングを行うなどした。

(3) 2011年度は、フランスの都市計画関連制度の現況に関し、以下の研究を行った：

A. 開発型都市デザインの事例：本年度は我国でも「開かずの踏切」などと問題視されることのある駅周辺整備を研究した。その結果、以下の結論を得た：

①近年の駅及び周辺整備推進の背景には、欧州連合の鉄道市場の開放政策、環境調和型交通手段とのシームレス化、新幹線整備推進等がある。

②駅及び周辺整備に必要な制度設計、組織整備、あるいは予算措置を国自らが進め地方自治体や国鉄を支援している。

③専門シンクタンクが旅情の確保を主眼とし、視認性と都市的連続性を方策とした計画・設計を行っている。

④地方自治体が、国土計画や広域都市計画の尺度で駅及び周辺整備を一体的に位置付けている。また、自治体・国鉄内部向けのマニュアルが作成され知見が共有されている。

⑤鉄道事業に駅及び周辺整備も付加したパッケージ型の輸出には至っていないが、国鉄子会社の活動からは駅舎管理や諸主体調整といった分野も含めた海外展開の推進が予想される。

B. 首都圏整備計画の概要把握：

グラン・パリ構想でパリの外港として位置付けられたル・アーヴルの都市計画の考察から以下の結論を得た：

①機能的重層性：港湾を物流空間という単一機能ではなくアメニティ提供空間として捉えるようになってきている。再開発では住宅政策との連関が考慮されている；

②社会的重層性：強味の強化と同時に、社会住宅整備や衰退施設の再利用という社会的視座を有している

③地理的重層性：港湾部に留まらず市全体、さらには後背地との連関も考慮した計画が立案され始めている。

また、これらは経済性も考慮した都市デザインにより先行的に提示されている点も特記に値しよう。

(4) 2012年度は、フランスの都市計画関連制度の現況に関し、以下の研究を行った：

文化的景観の保全の事例：我国では文化的景観は衰退農地を対象としがちだが、近年の農政の動向を勘案し、成長農業の文化的景観の事例として、フランスのワイン用葡萄畑のそれを研究した。その結果、以下の結論を得た：

①効率的農業と文化的景観の両立のための管理組織の構築：農地集約や機械化等の効率化に対し、専門の地元組合や中央の研究所との共同景観管理組織が構築され、生産者側の意向を勘案しつつも文化財の真正性を毀損しない方策が探求されている。

②景観保全のための諸制度の利用と分節化：フランスの葡萄畑の景観保全には、近年整備された優良農地保全制度も含め様々な手法があるが、AOC制度による栽培方法の制御は近景保全に最適と考えられ、その分、文化財保護制度等ではそれに干渉せず分節化を徹底している。

③葡萄畑の広告媒体化による修景の進展：ワイン観光を通じた生産直売や情報通信技術を利用した遠隔販売の可能性が探究され、その広告媒体として葡萄畑の景観の重要性が再認識されている。そのため有機栽培等の進展は無論、上記①による組織的対応とも相俟って、消費者に誠実な生産のイメージを附与する段々畑が修景により再生される等の効果が現れ始めている。

④質の高い現代建築の実現：同時に、高付

加価値ワインの消費階層の審美眼に応答可能な現代デザインの醸造施設も重視され、葡萄畑の中に屹立しつつもそれを紊乱しない現代建築が実現している。そして、近景に関しては建築の質がワイン価格に影響する市場原理を通じて調和を実現可能なため、施主及び設計者との調整は中・遠景とのそれに限られる。

⑤都市計画の機能不全や広域化にまつわる問題：他方、葡萄畑農家に後継者不足等の問題がある場合や、経済的に宅地化等が合理的な場合、市街化指向の都市計画に好意的になる。地方分権の進行は、その意向の反映を容易にしている。また、重要な葡萄畑景観の緩衝地帯制御のための広域都市計画の立案も困難で、そもそも策定が長期間に亘る問題もあり万全には解決していない。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

- ① 鳥海基樹・斎藤英俊・平賀あまな：「フランスに於けるワイン用葡萄畑の景観保全に関する研究—一般の実態の整理とサン・テミリオン管轄区の事例分析」、『日本建築学会計画系論文集』、Vol. 78-No. 685、2013年3月、pp. 643-652
- ② 鳥海基樹：「パリ (フランス) - ドラノエとオランダはポンピドゥーの亡霊を退治できるか」、『都市計画』、No. 300、2012年12月、p. 2
- ③ 鳥海基樹：「フランスに於ける都市計画と都市計画家像の歴史的定義」、『都市計画』、No. 297、2012年6月、pp. 9-13
- ④ 鳥海基樹：「フランスに於ける鉄道駅舎及びその周辺の都市整備に関する研究—政策展開と組織整備、計画・設計理念、一体的整備の一般化」、『日本建築学会計画系論文集』、Vol. 76-No. 669、2011年11月、pp. 2143-2152
- ⑤ 鳥海基樹：「『ル・アーヴル港湾 2000』から『グラン・パリ』へ—フランスに於ける重層的視点に立脚した港湾整備の一事例」、『2011年日本建築学会大会学術講演梗概集F-1分冊』、2011年8月、pp. 717-718
- ⑥ 鳥海基樹：「フランスの都市計画の広域化と地方分権—機能不全、策定組織、補完措置を軸に」、『新世代法政策学研究』(北海道大学グローバルCOEプログラム『多元分散型統御を目指す新世代法政策学研究』紀要)、第7号、2010年7月、pp. 249-289
- ⑦ 鳥海基樹：「フランスの公共空間整備憲章」、『季刊まちづくり』、第23号、2009年6月、pp. 84-87
- ⑧ 鳥海基樹：「ブリコラージュ・シティをめ

ざすりヨン』、『新建築』、2009年4月号、
pp. 195-198

〔学会発表〕(計1件)

鳥海基樹：「フランス都市計画の政策合成・
一般市街地制御・地域間調整技術による景観
街づくり」、北海道大学グローバルCOEプロ
グラム『多元分散型統御を目指す新世代法政策
学』研究会、2009年11月13日、於早稲田大
学

〔図書〕(計1件)

鳥海基樹・赤堀忍：『フランスの開発型都市
デザインー地方がしかけるグラン・プロジ
ェ』、東京：彰国社、2010年7月、111p

〔その他〕

「パリー世界一美しい都市」、テレビ朝日系列
『奇跡の地球物語』、2011年8月28日放映の
制作協力

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鳥海 基樹 (TORIUMI Motoki)
首都大学東京・都市環境科学研究科・准教
授
研究者番号：20343395

(2) 研究分担者

該当なし

(3) 連携研究者

該当なし